

みやまえナビ No. 4

宮前小学校学校だより

2014.7.1

文月七月・・・夏本番

学校長 内田 敏夫

夏至が過ぎ、**文月（フミツキ）7月**の始まりです。いよいよ一学期のまとめの時期に入ってきました。梅雨に入り、すっきりとした晴れた日は、まだまだ少なく感じます。でも、プールで夢中になって泳ぐ子どもたちの姿、連休明けに植えた作物の成長、そして何よりも日焼けした顔から覗く子どもたちの笑顔……盛夏も間近と実感させられる今日この頃です。

さて、文月は、読んで字の通り文章を書く月のことかな…と容易に予測できます。そこで文月の語源について調べてみました。文月の語源には、諸説がありますが、短冊に歌や字を書き書道の上達を願った七夕の行事にどうやらその源があるようです。一番有力視されているのは、文披月（フミヒラキヅキ）が転じて文月（フミツキ）と呼ばれるようになったようです。もう一つ



の有力な説は、陰暦の七月が稲穂の膨らむ月であるため、稲穂の膨らみを見る月であることから、『穂見月（ホミツキ）』が転じたと言う説もその一つです。

また、7月は、二十四節気では「小暑」（7月7日・この日から暑気に入る）を迎え「大暑」（7月23日・このころの暑さは一年で一番暑いと言われてはいますが…）に至ります。

今年は、どのような夏になるか分かりません。でも例年、新聞紙上では電力不足が懸念される報道が見られます。そこで保護者の皆さま方に一度読んでいただきたい右のような三行詩があります。

この詩は、平成23年度文部科学省・日本PTA全国協議会が主催し募集した三行詩で、見事に文部科学大臣賞を射止めたあるお母さんの作品です。皆さんのご家庭で実践してみてもどうでしょうか。きっといつもとは違った消費電力だけでなく、会話を通した家族の絆が一段と深まる良いきっかけを得られるのではないのでしょうか。

現代社会では、スマートフォンや携帯電話をはじめとするモバイルフォンの普及が加速度的です。幼稚園児が

冷房代
節約するためリビング集合
団欒復活 猛暑に感謝
（思春期の子を持つ母）

スマートフォンを使ってゲームに興じる時代です。過日の産経新聞には、モバイルフォンのお休みの日を設定した記事が載っていました。モバイルフォンを使わなければ家族間の会話が増え、お互いの意思の疎通を確認できてよかったと論じられていました。この三行詩は、核家族化が叫ばれて久しい現代社会において、とても清々しく感じます。蛇足になりますが、間もなく夏休みです。家族の絆を一段と太らせるチャンスです！


大人も子どもも、まずは聴き上手になることをお勧めします。大人は、子どものしゃべりをとらず、なるべく聴く耳を持って子どもに接していただければ幸いです。子どものしゃべりの中には、時々驚かされる発見があり、その発見こそが子どもの成長を見取る瞬間です。まずは「聞き耳頭巾」をかぶった気持ちで、子どもの新しい一面を発見して欲しいものです。

7月の予定

- 1日（火）セーフティネットの日 喫煙防止教室（6年生）香育（2年生）
- 2日（水）いじめなくそうデー 委員会
- 3日（木）ALT来校
- 4日（木）ALT来校
- 7日（月）夏の集会（1限）
- 8日（火）ALT来校
- 9日（水）平和学習 クラブ
- 10日（木）移動図書館
- 14日（月）朝鮮初中級学校との交流会
- 18日（金）終業式
- 19日（土）宮前ふれあい夏祭り
- 21日（月）海の日
- 22日（火）個人懇談①
- 23日（水）個人懇談②
- 24日（木）移動図書館



朝の運動、元気に頑張っているよ



今年度から、各学級の連絡網は作成しておりません。
学校や学年・学級からの連絡はメールでお知らせしますので、できる限りメール連絡システムにご登録ください。